

見つけよう！上新庄の残したい風景

対 象 エ リ ア	坂井市東十郷地区	
日 時	平成25年7月27日（土） 8:00～15:00	
開 催 場 所	上新庄集落センター	
対象者（人数）	上新庄地区の住民 参加者15名	
主 催	福井県	
共 催	上新庄区子ども会	
協 力	坂井市 上新庄区	
講 師	アルマス・バイオコスモス研究所 代表 水上 聡子 氏	
ね ら い	<p>坂井市東十郷地区は1,000余年を農村集落として稲作を中心に営んできている。しかし、産業構造や住生活の変化により古き良き農村集落や農家住宅が少なくなってきた。</p> <p>本ワークショップでは、地元集落や農家住宅を探索し、次の世代に残したい風景や次の世代に向けて育んでいきたい風景を探し、その風景を残していくためには何をすればいいかを話し合い、その内容を取りまとめたものを地域に配布することで、今後の住まい・まちづくり活動の材料や風景を残すために必要なルール作りなどのきっかけにする。</p>	
プ ロ グ ラ ム	<ol style="list-style-type: none"> 1. アイスブレイク 2. 昨年度の振り返り 3. 昔の上新庄の様子 4. 作戦会議 5. むら歩き 6. 昼食 7. グループワーク 8. 残したい風景の発表 9. 残したい風景の投票 10. 感想、講評 	
準 備 物	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコン ・プロジェクター ・スクリーン ・デジカメ ・クリップボード ・地図 ・残したい風景発見シート（どう良かったかをメモをするもの） ・ブランコ（屋敷林で遊びを体験してもらうためのもの） ・模造紙 ・マジック ・プリンター（撮影したデジカメデータを印刷するためのもの） ・ポストイット（大人と子どもで色分けをした） ・筆記用具（参加者持参） ・はさみ、のり（参加者持参） 	



参加者の緊張をほぐすために、アイスブレイクから始めた。今回のアイスブレイクでは、グループの中での自己紹介と、グループ名を決めた。また、むら歩きをする際の役割分担も決めた。



まず最初に、昨年度に行ったワークショップを振り返った。その後、昔の集落景観や遊びの様子が分かる写真を紹介し、残したい風景を探すヒントにしてもらった。



むら歩きをする前に、どのようなルートでむらを探索するか、どのあたりに残したい風景がありそうかを話し合った。



3グループに分かれてむら歩き開始。大人から子どもへ「ここは昔、〇〇だったんだよ」と説明をしていた。子どもたちも今まで知らなかった地元の話聞いてうれしそうだった。



集落を探索する際に、数名の方に自宅を開放していただいた。そのうちの1軒での様子。縁側に座って、縁側の良さを体感した。



家の中も見学させていただいた。家主から、なぜ田の字プランになっているかなどについて子どもたちに説明。昔ながらの暮らし方について学んだ。



ここのお宅は屋敷林が生い茂っているので、それを利用した遊具を設置した。家主からは、庭木を育てるためにはいろいろな手入れが必要だということを知った。



最近の子どもたちは木登りとかしないのかなあと思いきや、すいすい登っていき、枝にぶら下がったりしていた。子どもが持っている自然の中での遊ぶ力は失われていないことを実感した。



午後から、むら歩きで撮影した残したい風景について、グループで話し合っ6つほど選出した。その際に、その風景がなぜ良いのか、その風景を残していくためにはどうすればいいのかについても話し合った。



それぞれのグループで選出した残したい風景を、みんなの前で発表した。



それぞれのグループの発表が終わってから、良いと思った風景についてポストイットを使って投票した。大人票と子ども票が分かるように色を分けた。



左から、A班、B班、C班の作成した、残したい風景。



ワークショップとは別の日に開催された地区の公民館まつりで、地区住民がたくさん見守る中、ワークショップに参加した子供たちを中心に、地元の残したい風景について発表した。



ワークショップで取りまとめた内容を近くのJR丸岡駅舎に展示し、地区の残したい風景を他地区の人に向けて発信した。



のこ ふうけいはっけん 残したい風景発見シート



グループ名

まずは、私たちの生活にとって「いいな」と思うものを見つけよう！

(見つけたら、写真を撮っておこう。村の人に聞いてみよう。)

● 「いいな」と思うものは何？

(家、庭、畑、田、道、用水などいろいろなものをじっくり見てみよう)

地図に番号を
書いておこう

● それはどんなふうに「いい」のかな？

(便利？たのしい？役に立つ？気持ちいい？ありがたい？きれい？面白い？など)

● どうすれば、それを残していけるかな？つくっていけるかな？

● そこでどんな遊びをしたい？

今後も遊びたいと思う場所なら、その家の人に「また遊びに来てもいいですか」と、お願いをしてみよう。